

検査項目		正常値(参考値)		備考		
表示	項目名	数値	単位			
BMI 指数	体格指数 身長と体重から計算	身長(m)×身長(m)×22=適性体重		身長と体重でオーバーウェイトを判定。 25以上は肥満と判定されます。		
血圧		140~100/90~60	mmHg	脳卒中や心筋梗塞などの原因となる高血圧や、低血圧などを判定。測定値は、日によって、また時間によって変動するので、何回か測ることが必要。		
血清脂質検査	T-Cho	総コレステロール	142~248	mg/dl	数値が高いと動脈硬化の原因となり、心筋梗塞や脳梗塞などの病気を誘発してしまふ。脂や脂肪分を多くとりがちな食生活の欧米化の影響で、数値の高い人が増加しています。	
	HDL-C	HDL-コレステロール	男性38~90 女性48~103	mg/dl	血管内に付着する脂肪分を取り除き、動脈効果を防ぐことから「善玉コレステロール」と言われています。数値が低いと、心筋梗塞や脳梗塞などの病気を誘発してしまひます。	
	LDL-C	LDL-コレステロール	65~163	mg/dl	LDLコレステロールは、動脈硬化を引き起こす危険因子となることから「悪玉コレステロール」といわれています。数値が高いと、心筋梗塞や脳梗塞などの病気を誘発してしまひます。	
	TG	中性脂肪 トリグリセライド	男性40~234 女性30~117	mg/dl	体内の脂肪の主な成分でエネルギーとして利用され、余った分は皮下脂肪や内臓脂肪として蓄えられます。肥満、食べ過ぎ、飲みすぎで数値は上昇し、動脈硬化や脂肪肝の原因になります。	
貧血など	赤血球数	RBC	男性435~555 女性386~492	×10 ⁴ /μ	血液中の赤血球数を調べ、数値が低いと貧血が疑われます。生理出血の増加や、鉄分が不足している場合も低値になることがあります。	
	ヘモグロビン	Hb 血色素量	男性13.7~16.8 女性11.6~14.8	g/dl	赤血球の成分のひとつで、主に血液中の酸素を運搬する役割を果たしています。	
	Ht	ヘマトクリット	男性40.7~50.1 女性35.1~44.4	%	血液中の赤血球の容積の割合(%)を表し、低い場合は貧血の疑いがあります。	
	白血球数	WBC	3.3~8.6	×10 ³ /μl	白血球は、外部から進入した病原体を攻撃する細胞で、数値が高いと感染症や白血病、がんなどが疑われます。外傷がある場合や喫煙、ストレス、風邪などでも上昇します。	
腎機能検査	尿検査	尿蛋白定性	(-)		尿中に排泄されるたんぱくを調べ、腎臓病などの判定に用います。激しい運動の後、過労状態のとき、発熱時などに高くなることもあります。	
	血液	尿潜血反応	(-)		尿中に血液が出ていないか調べます。陽性の場合、腎臓病や尿路系の炎症が疑われます。	
	血液	クレアチニンCRE	男性0.65~1.07 女性0.46~0.79	mg/dl	筋肉内の物質からつくられ、尿から排泄されるクレアチニンの量を測り、腎臓の排泄能力をチェックします。数値が高い場合、腎機能障害や腎不全が疑われます。	
痛風検査	UA	尿酸	男性3.7~7.8 女性2.6~5.5	mg/dl	尿酸は、細胞の核の成分であるプリン体が分解してできた老廃物です。代謝異常により濃度が高くなると、一部が結晶化し、それが関節にたまるとう痛風になります。	
肝機能検査	血清酵素	AST	GOT トランスアミナーゼ	13~30	U/l	ASTとALTはともに肝臓に多く含まれるアミノ酸を作る酵素で、肝細胞が破壊されると血液中に漏れ、数値は高くなります。肝炎や脂肪肝、肝臓がんなど、主に肝臓病を発見する手がかりとなります。
		ALT	GPT トランスアミナーゼ	男性10~42 女性7~23	U/l	
		γ-GTP	γ-グルタミール・トランスペプチターゼ	男性13~64 女性9~32	U/l	
		ALP	アルカリフォスファターゼ	38~113	U/l	
	総蛋白	TP	6.6~8.1	g/dl	血清中のたんぱく質の総量。高い場合は、慢性肝炎や肝硬変など、低い場合は、栄養不良や重い肝臓病が疑われます。	
総ビリルビン	T.Bill	0.4~1.5	mg/dl	ヘモグロビンから作られる色素で、胆汁の成分になっています。黄疸になると体が黄色くなるのはビリルビン色素が増加するためです。		
糖尿病	尿糖定性	尿糖定性	(-)		尿の中に糖が出ているかを調べ、糖尿病を見つける指標のひとつとされています。陽性の場合、糖尿病や肺炎、甲状腺の機能障害などの疑いがあります。	
	空腹血糖	FBSまたはFBG	73~109	mg/dl	空腹時の血液中のブドウ糖の数値(血糖値)を調べ、糖尿病をチェックします。糖尿病の疑いがある場合は、ブドウ糖付加試験を行います。	
	HbA1c	グリコヘモグロビンA1c	4.9~6.0	%	血糖検査では、血液を採取したときの値しかわかりませんが、HbA1cは120日以上血液中にあるため、長時間(1~2ヶ月)にわたる血糖の状態を調べることができます。糖尿病の確定診断の指標に用いられたりします。	
便ヘモグロビン	便免疫学的ヒトヘモグロビン	(-)			大腸や肛門からの出血に反応し、陽性の場合、大腸のがんやポリープが疑われます。	
CRP	C-反応性蛋白	0.14 以下	mg/dl		感染症、炎症、組織崩壊がある時に増加する急性期反応蛋白です。細菌感染症、膠原病、心筋梗塞、悪性腫瘍、外科手術後、分娩後などで高値となります。	

※ 表中の正常値は、あくまで診断の目安となるもので、数値が範囲を超えていてもそれがすぐに異常につながるものではありません。また、治療の目標値でもありませんので、目標となる検査値は病気や患者さまにより異なりますので担当医にご確認下さい。